

はじめに

本市においては、だれもが安心・安全に移動できるまちづくりや、魅力ある都市景観の創出といった複合的な目標に向けたサインシステムの実現を目指し、平成 26 年に公共サインを整備する際のガイドラインとなる「大分市公共サインガイドライン」を策定しました。

このような中、本市は東九州の中核都市として発展を続けており、近年は、JR 大分駅の高架化や大分駅南土地区画整理事業、庄の原佐野線等の関連街路事業が進められるなど、100 年に一度と言われる県都のまちづくりにより、中心市街地が大きく変貌を遂げ、魅力とにぎわいあふれるまちが創出されています。また、2019 年には「ラグビーワールドカップ日本大会 2019」が開催されました。

こうした新しいまちの魅力と賑わいを求めて、多くの人々が本市を訪れることが期待されますが、まちを知らない来訪者が、まちを歩き、目的地に辿りつくためには、様々な情報を的確に提供する必要があります。

また、高齢者や障がい者、さらには、本市を訪れる外国人を含む様々な来訪者など、すべての人にとって、快適な移動空間の整備が求められており、バリアフリーやユニバーサルデザインの視点からもわかりやすい・見やすいサインが必要となります。

近年では、インターネットなど様々な媒体を通して、いつでもまちの情報を得ることができるようになっていますが、公共サインの機能が十分に発揮されれば、さらにまちを利用しやすくなります。

一方で、公共サインは景観を構成する重要な要素であることから、周辺の景観との調和に配慮し、景観の質そのものを向上させるための統一されたデザイン基準が必要となります。

また、積み重ねられた歴史や、人々の暮らしにより形成された地域特有の景観特性に配慮し、地域景観の向上にも貢献する美観性と視認性に優れた統一的なサインの整備を図る必要もあります。

そこで、平成 26 年に策定されたガイドラインに対して、より詳細なデザインに関する指針を追記し、公共サインの整備に必要な項目やその例示も行うことで、よりわかりやすくすぐれた公共サインの整備を行うことを目的に改定版を策定いたしました。

本ガイドラインに基づき、美観性と視認性に優れ、わかりやすい統一的な公共サインが整備されることにより、市民や来訪者の往来が円滑になり、賑わいあふれるまちづくりにつながることが期待されます。

目次

ガイドラインの使い方	04
サインガイドライン編	
1. ガイドライン	05
ガイドラインの位置づけ	06
公共サインの基本的な考え方	07
基本方針	10
設置の基本的な考え方	11
2. 維持管理	15
サインの本体基本構造	16
維持（点検及び更新）	18
管理	20
3. 公共サインの推進に向けて	23
公共サインの統一	24
断続的な取り組み	25
4. サイン共通事項	27
使用書体	28
文字の大きさ	30
日本語の表記	31
多言語の表記	32
大分市内文化財等 英語表記一覧	33
ローマ字の表記	36
ピクトグラムの表記	38
色彩	42
「市章」の活用	46
高齢者・車いす使用者・障がい者への対応	47
デザイン編	
1. サイン基準 案内サイン	49
表示範囲及び縮尺・向き	50
文字の大きさについて	52
表示することが望ましい情報	54
設置基準	56
バリアフリー情報の表示	58

2. サイン基準 誘導サイン	61
基本的な考え方	62
表示情報	64
文字の大きさについて	65
設置基準	68
3. サイン基準 位置サイン	71
文字の大きさについて	72
設置基準	73
4. 説明サイン	75
文字の大きさについて	76
設置基準	77
参考設計	79
誘導サイン：ポール状看板（2言語）	80
誘導サイン：ポール状看板（4言語）	82
誘導サイン：板状看板	84
位置サイン：板状看板	86
説明サイン	88
中心市街地まちあるき編：上野地区※詳細	90
中心市街地まちあるき編：大友氏遺跡地区	94
中心市街地まちあるき編：府内城下地区	95
中心市街地まちあるき編：西大分駅地区	96
エリア別カラータイプ	97
チェックリスト	107
共通基準	108
案内サインの個別基準	110
誘導サインの個別基準	111
位置サインの個別基準	112
説明サインの個別基準	113

ガイドラインの使い方

本ガイドラインを使用する際のフローを以下に示します。担当者は計画対象となるサインの種類、また設置想定箇所等から、文字サイズや版面情報、サインのカラー等をピックアップし、設計に反映させてください。ガイドラインの使用にあたっては、まず前半部分にあたる「サインガイドライン編」の基本的な考え方及び基本方針を熟読し理解に努めたうえで、デザイン検討に入ってください。

また、特殊なサイン等については、本ガイドラインに示された事項のみでの判断が難しい場合があります。そうした場合は、公共サインガイドライン担当者との相談・協議や公共デザインアドバイザー等、有識者や専門家のアドバイスを受けながら、設計検討を行ってください。

